

旅人は戦争できない／太田哲平さん

旅人は戦争できない。

「旅と平和」という今回のエッセイ大賞に挑戦しようと決意した時、この言葉が頭の中に産まれた。

僕は旅をとて愛している。自分が旅をするのもちろん、友達から旅の話を聴いたり、旅物語を読んだりするのも好きだ。そして僕は、旅と同じくらい平和を愛している。一見関係のない「旅と平和」であるが、この二つにはとても強い関係があると僕は思う。

平和な世界でなければ旅をする余裕が生まれない。では、逆に旅が平和に与える影響はあるのだろうか。自分が旅をしたり旅物語を読んだりするうちに、旅は世界を平和にする力があることに僕は気が付いた。冒頭の「旅人は戦争できない」とい

う言葉はそんな僕の発見から生まれたのかもしれない。今回のエッセイでは僕の経験を踏まえながら旅と平和の素敵な関係について書いていきたいと思う。

旅をしていると色々なことを実感する。「一期一会」という四字熟語もその一つだ。中学・高校と僕は自転車で色々な所へ出かけた。幾度となく出かけた自転車旅では多くの出会いがあった。例えばお巡りさん。自転車旅は基本的に深夜の内に出発する。中学生・高校生がそんな時間にうるついでいれば声をかけない方が不自然である。僕と、一緒に旅をしていた友達は何度もお巡りさんに呼び止められた。あまり悪いことはしていないので怒られることは無く、むしろこれからの旅路を心配してくれたり無謀ともいえる挑戦を応援してくれたりした。自転車旅の思い出を振り返ると少なからず彼らお巡りさんのことを思い出してしまう。お巡りさんだけではない。道を教えてくれた優しいおじさんやパンクを格安で直してくれた自転車屋さんなど多くの人と自転車旅を通して出会った。彼らと出会えたことに喜びとき、そしておそらくもう二度と出会えないと切なくなるとき、僕は「一期一会」を実感したのだった。

旅をするとき多くの出会いがある。そして出会いの数だけ別れがある。旅からそれを知りやがて僕は、一回一回の出会いを大事にしようと無意識のうちに思うように

なった。そして、奇跡のような出会いを積み重ねたからこそ出会えた、身近にいる人も大切にしようと思うようになった。身近な人を大切に思うと、身近な人にとっての身近な人も大切に思える。これを広げていけば全ての人を大切に思えるようになる。人を大切に思う。これは平和の基本中の基本ではないだろうか。

僕が平和を愛し、知らない人の幸せでさえ願えるようになったのは、旅を通して「一期一会」を実感し人と人の出会いの大切さを知ったからである。だからこそ、みんなが旅をして人と人の出会いの素晴らしさを実感できれば世界はもっと平和になると僕は信じている。

もう一つよく実感することがある。それは「十人十色」の素晴らしさである。隣の町へ出かけるような小さな旅でも自分の街との「違い」を実感する。その違いを生み出しているのは街が持つ「味」なのではないかと僕は思う。

街には味がある。お菓子が似合う甘い街もあれば、時を刻んだ渋い街もある。都会のオフィス街のようにさっぱりとした味の街もあれば、田舎の農村のようにおおくるの味がする街もある。そんな街が持つ味はそこに住む人に大きな影響を与え、県民性や国民性とよばれる性格の違いはそこから生まれるのではないだろうか。

僕が旅するのは「知らない世界」を見てみたいと思うからである。「まだ見ぬ人」に出会いたいと思うからである。そしてこの世界が知らない世界ばかりで、旅を試してみたいと思える世界であるのはそれぞれの街がそれぞれ異なる味を持っているからである。しかし、そんな旅人である僕を喜ばせる味という違いは時に争いの種となる。

仲の良かった友達や家族、国や地域がほんの小さな違いをきっかけにして争ってしまうという悲しい現実がこの世界にはあふれかえっている。違いは魅力あふれる世界を作る大切なものであるが、時には魅力あふれる世界や人間関係を壊してしまふ争いを作る原因となってしまう。

世界が十人十色で多様性がある限り争いは無くならないのだろうか。いや、そんなことはない僕が断言できる。

街であれ人であれ付き合っていくうちにあまりよく思わない部分を発見してしまふときがある。そんなとき僕はできるだけその街や人の好きな部分をみようとする。みんなそれぞれに違いがある以上受け入れたくないような部分が生まれてしまふのは仕方がない。しかし、違いがあるからこそ自分には無い魅力を手は持っているはずである。だからこそ人は人を愛するのではないだろうか。受け入れたく

ない部分があったとしてもそれを理由にして争ったり嫌ったりしてしまうのは勿体ない。そのことに気付けたのは僕のある特別な「旅」のおかげである。

僕の家庭は転勤族であったので転校という名の「旅」を繰り返してきた。それまで知らなかった土地に何年も住み続けるといったその特別な旅は僕にとっても大きな影響を与えた。方言の違い、県民性の違い、風土の違い・・・転校するとそのような多くの「違い」を目の当たりにする。もちろん、世間一般で言う旅でもそのような違いを少なからず感じることはある。しかし、そのような旅ではその土地で営まれている生活まで目が行くことは少ない。そんな普通の旅では目を向けられない「日常」にこそその街が誇る「味」がよく表れるのである。転校という特別な「旅」をしたからこそそのことに僕は気が付けた。

全く知らなかったその土地の味に最初は戸惑ってしまふ。その味に親しんだ人々と中々仲良くするのは難しい。そこで大事なのはまず街の味を受け入れることである。街が持っている味が最初からいきなり自分と調和することは無い。さらに、街の方が変わることがはまずない。だから、僕自身がどうすれば調和できるかを考えるほかない。そして、調和する糸口を探すうちにその街の魅力を少しずつ発見していく。魅力を一度見つけられれば多少の合わないところも受け入れられその街と仲良くおつきあいしていくことが出来る。これは街だけではなく人に関しても言えることだと思ふ。嫌いと言って突き放すのは簡単である。努力して相手の持っている味を

心で味わい、受け入れ、魅力を探するのはとても難しく面倒なことである。だが、そうした面倒の先には自分が知らなかった奥深く素晴らしい世界が待っている。僕は今では日本各地に多くの友達が出来とても幸せである。その幸せをもたらしたのは転校という特別な「旅」のおかげであった。さらに僕は十人十色の素晴らしさに気付くことが出来たのであった。

この世界にはたくさん「違い」がある。その違いは時に争いを生んでしまうこともあるが、違いは旅を面白くするスパイスであり人と付き合っていくうえで違いが無ければつまらないであろう。奇跡のような一期一会の積み重ねの上で、多様なあふれるこの十人十色の素晴らしい世界がある。違いを基にして争うのはとてももったいないことである。お互いの違いを尊重し、その素晴らしい出会いを祝福しあえばもっと素晴らしい世界になると僕は思う。そして、そんな素晴らしい世界をいつか旅してみたいと僕は夢見てしまふ。多くの人が旅をして十人十色、違いがあるということの素晴らしさに気付き、お互いの違いを尊重できるように世界が築ければそれは決して夢に終わることは無いと僕は信じている。

僕は旅を通して様々なことに感動し色々なことを学んだ。中でも「一期一会の貴重さ」と「十人十色の素晴らしさ」をととても実感した。結果、奇跡のような偶然で

出会えた、身近な人をさらに大切にしたいと思うようになった。平和をとても愛するようになった。

僕は旅を通して多くの街と人に出会った。十人十色、多彩な出会いをした僕は彼らの幸せを祈っている。さらに、まだ見ぬ街、出会わぬ人の幸せも祈れるようになった僕はこの世界が平和であれと願うようになった。そして、世界中の人が旅をしてこの世界の素晴らしさに気づけばもっと世界は平和になるのではないかと僕は考えるようになった。

僕には小さな頃からの二つの夢がある。それは作家になること。そして世界一周をすることである。今回のエッセイ大賞の開催を知り僕の胸は躍った。僕が好きな文章を書くというだけで世界一周することができるかもしれない！さらにその世界一周の物語を書くことができるかもしれない！ポスターの前で思わず興奮してしまった。

旅は一期一会や十人十色や平和だけではなく、多くの大切なことを教えてくれる。これほど面白いものは他にない。だからこそ僕は他の人にもっと旅をしてもらいたいと思うし、少しでもその魅力を伝えたいと思う。そのために、僕にしか書けない魅力に溢れ好奇心を刺激するようなワクワクする旅物語を書きたい。そして、その旅物語を読んでたくさんの人が旅に出て、たくさんの人が旅の面白さを知り、

この世界の素晴らしさと、それを密かに支えている平和の尊さを感じてほしいと僕は思う。

旅人は戦争できない。と、冒頭に書いた。旅人はこの世界の素晴らしさを、旅を通して知っている。だから、その世界を壊すような戦争を旅人ができるはずがないと僕は思う。もし、今以上に旅と世界を愛する旅人が増えたら世界はもっと平和になると僕は信じている。そして、物語の世界を通して旅を愛する人を増やすという形で、旅を愛することによってこの世界の素晴らしさに気が付きこの世界の平和を願う人が増えるという形で間接的ではあるが僕だからこそできる平和への貢献があると僕は思う。そう、旅と物語の力でこの世界を平和にするのは決して夢ではないと希望が湧いてくるのだ！！

僕の大好きな旅と、これまた僕の大好きな物語という世界を通してこの世界の平和に貢献したい。僕のこの世界一周より壮大な夢をぜひこの手で叶えてみせようではないか！